

日本内分泌学会 男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 関東甲信越支部のご紹介

JES We Can は 2009 年に女性専門医育成・再教育委員会として発足し、現在は男女共同参画委員会として、性別やその他の状況に関わらず、皆が生涯を通して活躍することをゴールに見据えています。関東・甲信越支部は茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟の広いエリアから成り、会員数最大の支部です。JES We Can 当支部の現在の主な活動として、1) 関東甲信越エリアで開催される内分泌学会総会、内分泌代謝 Update 学術集会及び当支部学術集会での JES We Can 企画、2) 当支部学術集会における「JES We Can 関東甲信越支部 優秀演題賞」の審査・授与などを行っております。

会員の皆様からのご相談やご要望も随時受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。また、新规程で JES We Can 協力委員が新設されました。今後、若い世代の方々を含め、より多くの方々に、協力委員としても JES We Can 活動にご参加頂けたらと存じます。

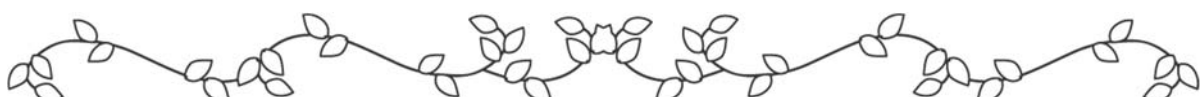
また、この場で「JES We Can 関東甲信越支部 優秀演題賞」を紹介させていただきます。当賞は 2019 年に鈴木真理先生が女性初の大会長を務めた第 20 回当支部学術集会から創設され、若手女性会員の研究奨励、モチベーション向上を目的にしています。「対象は申請時に関東甲信越地区の施設に勤務あるいは在住している日本内分泌学会の女性会員、応募する年次支部学術集会時に 40 歳以下、抄録登録時に優秀演題賞の選考対象に含まれることに同意した方です。同一申請者の授賞回数は1回を限度とし、会長賞等の他の授賞は妨げない」とされています。今後もより多くの方々が演題提出時に JES We Can 賞へエントリーして下さることをお待ちしております。

JES We Can 関東甲信越支部委員は以下のメンバーで、基礎から臨床の各分野、内分泌医・研究者として多彩な経験を積み、年代や働くフィールドも多様な委員から構成されています。

(五十音順) 荒田 尚子、井下 尚子、岩部 美紀、小澤 直子、片井 みゆき、方波見 卓行、北中 幸子、鈴木 真理、田島 敏弘、田辺 晶代、中嶋 康代、波多野 雅子、深見 真紀、福田 いずみ、藤田 恵、堀川 玲子、山口 実菜 (文責 支部代表 片井 みゆき)

委員から皆様へのメッセージを掲載させていただきます。

◆荒田 尚子 国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター母性内科 診療部長
周産期に関連した、内分泌、特に甲状腺と糖代謝や肥満を専門しています。この分野は、未開拓分野であり、胎内環境の児への影響ははかり知れず、より多くの先生方に興味持って、より深く関わって頂きたいです。





◆井下 尚子 東京都健康長寿医療センター 病理診断科

女性は学会／研究活動に適した期間を子育て等で逃しがちですが、症例報告などのお手伝いを通し、「活動再開のきっかけづくり」ができることを願って、臨床と基礎の隙間を繋ぐ病理医の立場で応援しています。

◆岩部 美紀 東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 特任准教授

私は Ph.D.で、研究奨励賞受賞をきっかけに「研究者の活躍のために」と、委員へのお誘いを受けました。実験への興味、きっかけ作りを大切にしています。内分泌学研究を志す仲間を増やすべく全力を尽くします。

◆小澤 直子 草加市立病院 内分泌・代謝内科 部長

基礎研究や大学生生活を離れて久しいのですが、市中病院で女性も多く含む若手医師の育成を行いながら地域の内分泌・代謝診療に携わっている立場で気づけることを委員会活動に活かせればと考えています。

◆片井 みゆき 政策研究大学院大学 保健管理センター 教授

内分泌内科医として性差・女性医療に携わり、女性診断支援ツールの研究開発中です。2019 年から支部代表を拝命しました。今後、若い世代や男性の方々を含め、より多くの方々に JES We Can 企画・活動にご参加を頂けたらと存じます。

◆方波見 卓行 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 副院長

女性の活躍無しに日本の再生はありません。また、その促進は重要な学会の社会貢献の一つです。男女を問わず本委員会の活動にご注目頂ければ幸いです。

◆北中 幸子 きたなかこども成長クリニック 院長

小児内分泌科医として、これまでは東京大学で疾患原因遺伝子研究、小児内分泌臨床、男女共同参画などに携わり、現在は成長クリニックをしております。ワンオペ子育てや介護も経験し、医師における多様性の視点を重視しています。

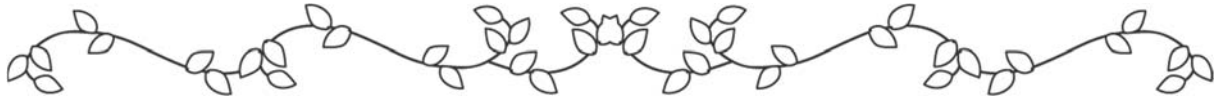
◆鈴木(堀田)眞理 政策研究大学院大学名誉教授/跡見学園女子大学心理学部特任教授

Metabo-psychiatric disorder である摂食障害の臨床と研究に従事しています。JES We Can は、女性の会員数比率に見合う活躍の場を増やし、男女を問わず会員の多様なニーズを学会運営に反映することが使命と考えます。

◆田島 敏広 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児科 教授

お世話になっております。JES We Can 関東甲信越支部に移りましたが、いまだ皆様のクオリティの高いアクティビティーについていくことができません。今後微力ながら貢献できるよう尽力いたします。よろしくお願い申し上げます。





◆田辺 晶代 国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科 医長

私は長年内分泌疾患の診療、研究に携わってきました。内分泌代謝科は緊急例の頻度が高くなく、女性医師のワークライフバランスを得やすい領域です。これからも内分泌医を目指す女性医師を全面的に支援して参ります。

◆中島 康代 群馬中央病院

JES We Can に参加を通じて全国の多くの先生と大変楽しく交流させていただいております。JES We Can 委員として、学会活動のみならず、同じ志を持つ仲間とのコミュニケーションの強化に尽力できればと思います。

◆深見 真紀 国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部 副所長

内分泌学研究者が、性別、医師免許の有無、年齢等とは無関係にそれぞれの能力を最大限発揮できるような環境整備を目指しています。

◆福田 いずみ 日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科 准教授

JES We Can では2017年より支部代表として支部会でのJES We Can 企画などに関わりました。2019年からは日本内分泌学会の監事を務めております。今後も微力ながら若手の方々に内分泌の面白さを伝えたいと思います。

◆藤田 恵 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 助教

12年前、妊娠中に本委員会のお話を頂戴し、発足当初から携わらせていただいております。「生涯輝いて活躍を」とのJES We Can スローガンに少しでも近づけるよう、委員としても人としても、微力ながら頑張ります。

◆堀川 玲子 国立成育医療研究センター 内分泌代謝科 診療部長

内分泌学の面白さと小児科の魅力に惹かれ、小児内分泌を専門としました。この分野での発展途上国支援はライフワークです。女医としては皆さんと出会えたことで得られることも多く、これからも一緒に発展していければと思います。

◆山口 実菜 平塚共済病院 内分泌代謝内科 部長

中核病院で勤務医をしながら親の介護や高齢出産を経験し、現在進行形で子育てと仕事の両立に悪戦苦闘中です。皆さんと悩みや不安などを共有していけたらと思います。

